

科目名	建築設計製図 I				
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	古賀 俊光
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事
対象学科・学年	建築工学科 1年				
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。 本授業では、製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、木造建築物の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。				
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
		○			
		○			
		○	○		
		○	○		
		○	○		
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	製図用具の説明・名入れ			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	2	線の練習 (①線の種類 ②線の引き方 ③線と図面)			
	3	線・文字・三面図の演習			
	4	配置図の作成 配置図の解説(図面の意味、作成方法)			
	5	配置図の作成			
	6	模型から図面をおこす 作図方法の説明			
	7	木造建築物(平屋)の平面図・立面図・断面図の作成			
	8	木造建築物(平屋)の平面図・立面図・断面図の作成			
	9	丸屋根のある住宅 平面図の作成			
	10	丸屋根のある住宅 平面図の作成			
	11	丸屋根のある住宅 平面図の作成			
	12	丸屋根のある住宅 立面図・断面図の作成			
	13	丸屋根のある住宅 立面図・断面図の作成			
	14	丸屋根のある住宅 立面図・断面図の作成			
	15	丸屋根のある住宅 模型を平図面におこす			
	16	丸屋根のある住宅 模型を平図面におこす			
	17	テラスとピロティのある住宅 模型を平面図におこす			
	18	テラスとピロティのある住宅 模型を平面図におこす			
	19	テラスとピロティのある住宅 平面図の作成			
	20	テラスとピロティのある住宅 平面図の作成			
	21	テラスとピロティのある住宅 立面図・断面図の作成			
	22	テラスとピロティのある住宅 立面図・断面図の作成			
	23	木造建築物(2階建て) 製図作成に関する説明			
	24	木造建築物(2階建て) 1・2階平面図の作成			
	25	木造建築物(2階建て) 1・2階平面図の作成			

	26	木造建築物(2階建て) 1・2階平面図の作成					
	27	木造建築物(2階建て) 1・2階立面図・断面図の作成					
	28	木造建築物(2階建て) 1・2階立面図・断面図の作成					
	29	木造建築物(2階建て) 1・2階立面図・断面図の作成					
	30	木造建築物(2階建て) 短矩図の作図指導					
	31	木造建築物(2階建て) 短矩図の作図					
	32	木造建築物(2階建て) 短矩図の作図					
	33	木造建築物(2階建て) 短矩図の作図					
	34	木造建築物(2階建て) 伏図の作成指導					
	35	木造建築物(2階建て) 伏図(基礎、床、小屋)の作図					
	36	木造建築物(2階建て) 伏図(基礎、床、小屋)の作図					
	37	木造建築物(2階建て) 伏図(基礎、床、小屋)の作図					
	38	有名住宅パネル製作課題 課題説明 資料収集					
	39	有名住宅パネル製作課題 模型製作用図面作成					
	40	有名住宅パネル製作課題 建物概要パネル作成					
	41	有名住宅パネル製作課題 建物概要パネル作成					
	42	2級建築士国家試験問題①トレース 試験内容の説明 課題実施					
	43	2級建築士国家試験問題②トレース 試験内容の説明 課題実施					
	44	2級建築士国家試験問題③トレース 試験内容の説明 課題実施					
	45	2級建築士国家試験問題④トレース 試験内容の説明 課題実施					
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○				30%
	課題作品		○	○			60%
	提出作成状況		○				10%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築計画Ⅰ							
科目名(英)	Architectural planning and designⅠ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	森行 美枝	
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当	
対象学科・学年	建築工学科 1年							
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察する。							
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				建築計画とは何かを説明できる		
	○	○				既存の建築計画を調査・研究し、内容が説明できる。		
	○	○				戸建て住宅と集合住宅の特徴を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代 参考図書:建築ガイドダンス初めて建築を学ぶ人のために、コンパクト建築設計資料集成、「新建築」等の建築雑誌							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	シラバス説明、建築計画とは、						
	2	住様式と住宅の変化					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	戸建て住宅 配置計画・平面の類型					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	戸建て住宅 各室の計画1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	戸建て住宅 各室の計画2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	戸建て住宅 各室の計画3・規模計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	戸建て住宅の計画1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	戸建て住宅の計画2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	中間テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	集合住宅 団地計画					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	集合住宅 集合住宅の種類1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	集合住宅 集合住宅の種類2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	細部計画1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	細部計画2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	細部計画3					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)小テスト (3)宿題・レポート提出 提出状況 など次ぎの規準で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				80%	
	小テスト	○	◎				10%	
	宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	建築一般構造Ⅰ							
科目名(英)	Introduction of Building ConstructionⅠ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	古賀 俊光	
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年							
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。							
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				木材と木質材料について説明することが出来る。		
	○	○				木材の接合(仕口、継手)の名称と特徴について説明することが出来る。		
	○	○				木材の接合(釘、ボルト、金物)の名前と特徴について説明することが出来る。		
		○				壁倍率と壁量の算出をすることが出来る。		
	○					木造の各部の構造について説明することが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	建築物の構成要素、構造の安定と不安定						
	2	建築物に作用する外力とその伝達メカニズム				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	木質構造の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	木材と木質材料				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	木材の接合(仕口、継手)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	木材の接合(釘、ボルト、金物)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	軸組(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	軸組(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	壁倍率と壁量				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	小屋組・確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11	床組				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	枠組壁構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	各部の構造(屋根、床、階段)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	各部の構造(壁、天井、開口部)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	構造Ⅰの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				70%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	建築材料Ⅰ							
科目名(英)	Building materialⅠ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	古賀 俊光	
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年							
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ							
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				建築材料の役割、発達、分類、必要な性能、規格・基準を説明することができる。		
	○	○				樹木の種類と特徴、主用途について説明することができる。		
	○	○				木材の木取り方法や木理など製材に関する内容を説明することができる。		
	○	○				木材の含水率と変形性情、強度性情の関係について説明することができる。		
	○	○				コンクリートの硬化後の力学性状に影響を及ぼす要因について説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	建築材料とは						
	2	木材の基本的な特徴(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	木材の規範的な特徴(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	建築用木材の性質(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	建築用木材の性質(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	建築用木材の性質(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	建築用木材の性質(4)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	木質材料(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	木質材料(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	コンクリートの発達と利用				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11	コンクリートの基本的性質(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	コンクリートの基本的性質(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	コンクリートの基本的性質(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	コンクリートの基本的性質(4)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				70%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	建築法規 I									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		徳田 美穂子	
実施年度	2021年度		実施時期		前期		担当者実務経験		設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年									
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。				
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。				
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。				
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。				
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	建築基準法の概要					事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	2	条文の読み方・法令の体系					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	3	用語の定義①					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	4	用語の定義②					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	5	用語の定義③					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	6	用語の定義④					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	7	確認テスト(筆記試験)					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	8	面積の算定①					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	9	面積の算定②					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	10	高さの算定等					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	11	居室の採光①					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	12	居室の採光②					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	13	居室の換気					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	14	居室の天井高さ・床の高さ					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	15	確認テスト(筆記試験)					定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○		◎				80%		
	確認テスト	○		◎				20%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	トータルコミュニケーション I								
科目名(英)	Global Citizen Basic I								
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	各クラス担任		
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年								
授業概要	本講義は、コミュニケーションに関する基本的な考え方の理解、および社会生活における円滑なコミュニケーションを実践するための知識・ノウハウの習得を目的とする。とりわけ、コミュニケーションを構成する基本要素である言語／非言語と情報メディアに注目する。								
授業形式	講義：	○	演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				コミュニケーションの要素や種類について説明できる。			
	○	○				自分の意見や考えを他者に適切に伝える方法を説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書は指定しない。参考図書はそのつど指示をする。								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	オリエンテーション					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	2	コミュニケーションとは定義と特徴					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	3	コミュニケーションの手段					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	4	コミュニケーション能力と言語コミュニケーション					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	5	非言語コミュニケーション					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	6	言語・非言語コミュニケーションのケーススタディ					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	7	コミュニケーションの基礎となる自分の「価値観」と「枠組み」					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	8	自分の気持ちのコントロール					講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミ		
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								
評価方法	(1)課題の提出 以上の内容にて判断し R評価(可、不可)で判断する。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題の提出	○	○				100%		
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする								

科目名	ビジネスマナーⅠ							
科目名(英)	Business manner							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	津嘉山 佳子	
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	専門学校にて、ビジネスマナー教員として勤務	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年							
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客対応、電話対応、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。							
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
					○	立居振る舞いを身に付ける		
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。		
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。		
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する		
					○	基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。		
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	社会人としての心構え― 社会と組織・仕事と成果					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	基本動作 立居振る舞い ― 第一印象について 基本動作練習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	言葉遣いの基本① ― 話の仕方・話の聞き方 敬語の基本					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	言葉遣いの基本② ― 間違いやすい敬語の解説					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	言葉遣いの基本③ ― よく使われる接遇用語・クッション言葉					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	サービス接遇検定対策 ― 必要とされる用件					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	サービス接遇検定対策 ― 従業用語・専門知識・専門用語					専門用語確認テストを実施するので、復習をしておく	
	8	サービス接遇検定対策 ― 専門用語確認テスト・一般知識					一般知識確認テストを実施するので、復習をしておく	
	9	サービス接遇検定対策 ― 一般知識確認テスト 用語について復習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	交際業務1 ― ビジネス文書の種類・社外文書のスタイルについて					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	交際業務2 ― 社内文書のスタイルについて 文書作成に必要な用語					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	交際業務3 ― 封筒の書き方 縦書き・横書き 返信はがきの書き方					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	交際業務4 ― 郵便の知識について(適切な郵送方法が選択できる)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	交際業務5 ― 冠婚葬祭について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める					定期試験に備えて、復習をしておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	○				75%	
	小テスト	○	○				15%	
	実技試験					○	10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	JWCAD演習						
科目名(英)	jwcad exercise						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	吉田 麻美
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	JW-CADのコマンド操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得 用紙サイズ・尺度・寸法など製図知識の習得 木造住宅・鉄筋コンクリート造の計画・各部分の名称・構造等の習得						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○				用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールを理解して作図することができる。	
		○	○			木造住宅、鉄筋コンクリート造の書き方を理解出来る。	
		○	○			自ら用途に応じてJWCADの各種設定を行うことができる。	
		○	○			レイヤの設定、かき分けができる。	
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1,2	JW-cadの基本操作(1)線分・消去・矩形・中心線・複線					授業で使用するソフトのインストールを行っていること。
	3,4	JW-cadの基本操作(2)円・円弧・接円・接点・点					前回の復習を行うこと
	5,6	JW-cadの基本操作(3)伸縮・コーナー・面取・分割					前回の復習を行うこと
	7,8	JW-cadの基本操作(4)複写・移動・パラメトリック・多角形・測定					前回の復習を行うこと
	9,10	作図課題1(木造住宅)①図枠作成・レイヤ設定・配置図作成					前回の復習を行うこと
	11,12	作図課題1(木造住宅)②配置図作成					前回の復習を行うこと
	13,14	作図課題1(木造住宅)③レイヤ設定・1階平面図作成					前回の復習を行うこと
	15,16	作図課題1(木造住宅)④1階平面図作成・2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	17,18	作図課題1(木造住宅)⑤2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	19,20	作図課題1(木造住宅)⑥建築概要作成・印刷設定					前回の復習を行うこと
	21,22	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)①1階平面図作成・包絡コマンド					前回の復習を行うこと
	23,24	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)②1階平面図作成					前回の復習を行うこと
	25,26	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)③2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	27,28	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)④断面図作成					前回の復習を行うこと
	29,30	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)⑤断面図作成・印刷設定					前回の復習を行うこと
評価方法	(1)6つの課題を期限内に提出すること。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出	○	○	○			30%
	作品評価	○	○	○			70%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築図学 I							
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE I							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山内 由美	
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	建築工学科 1年							
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。 オーナーの希望を具体化し 絵 として表現する事により、より解りやすく表現する方法である。 建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。							
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				建築パースの役割と意義を説明できる。		
		○				1消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける		
		○				2消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける		
		○				図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを描ける		
		○				内観パースに着色し、カラーパースとして完成させる。		
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	概要説明 建築パースの重要性・必要性						
	2	内観1消点法・基本・変形					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	3	斜め家具の配置					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	4	ベッドルームの作成 1消点図法					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	5	和室のパース作成 1消点図法					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	6	リビングルームの作成 ① 1消点図法					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	7	リビングルームの作成 ② 2消点図法					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	8	リビングルームの作成 ③ 2消点図法					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	9	浴室 フリーハンドパースの作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	10	洗面室 フリーハンドパースの作図					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	11	キッチン① フリーハンドパースの作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	12	キッチン② フリーハンドパースの作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	13	ショップ① フリーハンドパースの作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	14	ショップ② 図法・フリーハンドパースの作成					課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	15	着色					授業最終日に指定する締切日に全作品を提出	
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	課題提出		○				20%	
	課題作品		○				50%	
	期限内での提出		○				30%	
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。							

科目名	造形学Ⅰ						
科目名(英)	Architectural modeling Ⅰ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山内 由美
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	建築模型製作の基礎を学ぶ。 【手で作る 模型演習】 模型づくりを通して建築をつくり出すことの楽しさを実感させる。 【手で描く 製図演習】 重要な前提知識と基礎技術の中から、これだけは確実に覚えてほしいことに絞り込んでトレーニングを行う。その際に、模型演習で作製した模型を活用。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築図面を正確に読みとくことができる	
	○	○	○			図面から正確な建築模型制作することができる	
テキスト・教材 参考図書	模型づくりからはじめる建築製図の基礎						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	道具と材料、スチレンボードの加工、立方体をつくる					
	2	家のカタチをつくる					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	3	立体曲面をつくる					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	4	切妻屋根の住宅模型					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	5	建築図面の読み方					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	6	L字形平面の住宅模型①					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	7	L字形平面の住宅模型②					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	8	コートのある住宅模型①					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	9	コートのある住宅模型②					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	10	丸屋根のある住宅模型①					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	11	丸屋根のある住宅模型②					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	12	丸屋根のある住宅模型③					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	13	テラスとピロティのある住宅模型①					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	14	テラスとピロティのある住宅模型②					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
	15	テラスとピロティのある住宅模型③					授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと
評価方法	(1)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(2)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品	○	○	○			60%
	提出状況		○				40%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	福祉住環境									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		中園 理恵子	
実施年度	2021年度		実施時期		前期		担当者実務経験		建設会社にて建築設計に従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年									
授業概要	福祉住環境コーディネーター3級試験対策の問題演習を通して、福祉住環境コーディネーターの知識の習得を図る									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					福祉住環境整備の重要性・必要性を説明できる。				
		○				高齢者の健康と自立に関する知識がある。				
		○				バリアフリーとユニバーサルデザインを考えることができる。				
		○				住まいの整備のための基本技術がある。				
		○				ライフスタイルの多様化と住まいをデザインすることができる。				
テキスト・教材 参考図書	福祉住環境コーディネーター検定試験3級 公式テキスト 東京商工会議所編									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	第2章 健康と自立をめざして					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	第4章 安全・安心・快適なすまい					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	第5章 安心できる住生活とまちづくり					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	第1章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	7	第2章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	8	第3章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	9	第4章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	10	第5章 振り返り中間テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	11	過去問題・予想問題①					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	12	過去問題・予想問題②					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	13	過去問題・予想問題③					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	14	過去問題・予想問題④					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	15	直前模擬試験					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	本検定試験合格者は点数に関わらずS(合格70以上→90～) A(60～69→80～) B(50～59→70～) C(～49→60～) D(欠→60未満)									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	検定試験		○	○				100%		
履修上の注意	予習復習(配布プリント)をしっかりとすること。									

科目名	GCB I										
科目名(英)	Global Citizen Basic I										
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		各クラス担任		
実施年度	2021年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年										
授業概要	社会人基礎力と志(使命感)、感謝や思いやり等(基本的な人間力)の要素をコンピテンシーと定め、GCBの中で学びます。GCB I では、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)、「感謝と思いやり」について学びます。										
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間力)であることを知る					
	○	○				「感謝心」が人間力の根底にあることを知る					
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性に気づく					
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I テキスト										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	グローバルシティズンを目指そう グローバルシティズンとは					テキストを熟読しておく				
	2	「協働」の態度を持った学生生活 「働く」ことの幸せとは					テキストを熟読しておく				
	3	より良い人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性					テキストを熟読しておく				
	4	マナーの本質 I 思いやり・気配りのカタチ					テキストを熟読しておく				
	5	マナーの本質 II 相手に敬意を表する・思いを伝える“あいさつ”					テキストを熟読しておく				
	6	グローバル・シティズンとしての日常					テキストを熟読しておく				
	7	グローバル・シティズンとしての目標					テキストを熟読しておく				
	8	グローバル・シティズンとしての「志」に向けて					テキストを熟読しておく				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)課題の提出 以上の内容にて判断し R評価(可、不可)で判断する。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	課題の提出		○		○						
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする										

科目名	数学ゼミ I A						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	吉田 麻美
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 1年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義： △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				正の数と負の数が含まれた基本的な数式問題が解ける	
	○	○				1次方程式の基本問題が解ける	
	○	○				比例と反比例の基本問題が解ける	
	○	○				図形に関する基本問題が解ける	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】 正の数と負の数、いろいろな計算(四則計算)				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式					
	3	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式 1次方程式の利用					
	4	【演習問題】 比例と反比例					
	5	【演習問題】 比例と反比例 比例と反比例の利用					
	6	【演習問題】 平面図形					
	7	【演習問題】 空間図形					
	8	【演習問題】 総合演習 まとめ					
評価方法	(1)課題の提出 以上の内容にて判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出	○	○				100%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	BIM 専攻 I A(選択)										
科目名(英)	Building Information Modeling I A										
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		道脇 力		
実施年度	2021年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年										
授業概要	・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。										
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
		○				覚えたコマンドを効果的に活用してモデリングを行うことができる。					
		○				モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。					
		○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。					
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1 及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱、梁、壁」					テキストを見て予習を行うこと				
	2	モデル入力「ドア、窓、スラブ、階段、オブジェクト」					前回の復習を行うこと				
	3	モデル入力「2階、3階、屋上の作成、カーテンウォール」					前回の復習を行うこと				
	4	モデル入力「断面図、立面図、レンダリング、レイアウト」					前回の復習を行うこと				
	5	課題1:モデル再入力「1階、2階」					前回の復習を行うこと				
	6	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」					前回の復習を行うこと				
	7	環境モデル作成、材質設定、レンダリング設定					前回の復習を行うこと				
	8	プレゼンテーションボード作成「データ提出」					前回の復習を行うこと				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	発表・作品			◎				50%			
	課題提出			◎				50%			
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。										